

「こどものSNS犯罪」を題材とした新聞活用授業の 実践と効果：「こどもと安全」の授業実践として

著者	菊地 達夫
雑誌名	北翔大学短期大学部研究紀要
号	58
ページ	43-51
発行年	2020
URL	http://doi.org/10.24794/00002989

「こどものSNS犯罪」を題材とした 新聞活用授業の実践と効果 ——「こどもと安全」の授業実践として——

Practice and Effect of Newspaper Utilization Class on “Children’s SNS Crime”

菊 地 達 夫*
Tatsuo KIKUCHI

I は じ め に

昨今、こどもに対する犯罪は、多様化している。とりわけ、科学技術の進歩が、逆に新たな犯罪を生じさせることが少なくない。例えば、SNSのようなデジタルコミュニケーションツールを起因とする犯罪は、その典型と言えよう。このような犯罪から身を守るには、保護者、地域住民（保育者や教員を含む）といった大人の役割・支援は欠かせない。同時に、こども自身にも、防犯の意識を高めていく必要がある。

ある地域で発生した犯罪は、他地域で模倣し、類似した形で出現することがある。ゆえに、新聞やテレビ、インターネットなどの報道ニュースは、毎日確認し、情報収集しておくことが大切となってくる。保育者や小学校教員の場合、その手の情報を広く収集し、こどもや保護者へ注意喚起を促していくといった補完的な役割が重要である。

平成30年幼稚園教育要領解説によれば、「安全上の配慮」として、「災害時の行動の仕方や不審者との遭遇など様々な犯罪から身を守る対処の仕方を身に付けさせるためには、幼児の発達の実情に応じて、基本的な対処の方法を確実に伝えとともに、家庭、地域社会、関係機関などともに連携して幼児の安全を図る必要がある。（中略）安全に関する指導及び安全管理の両面を効果的に実施するためには、日頃から安全に関する実施体制の整備が大切であり、学校保健安全法に基づく学校安全計画及び危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）などを作成し、園内の全教職員で共通理解をしておくとともに、全教職員で常に見直し、改善しておくことを怠ってはならない」と述べている。すなわち、こどもの犯罪・安全に関する情報収集・共有、対処の仕方の伝達、継続訓練といった点を重視している。

そこで、本稿は、保育者や小学校教員を目指す学生に、具体的なこどものSNS犯罪について、新聞記事を用いながら、事実認識とその対策の理解を深めようとする授業実践を行い、それを検証する。また、情報収集する手段として、どのような新聞活用・手法が有効か、体験を通して気付かせたい。具体的には、「こどもと安全」の授業実践として行い、授業の様子や授

*北翔大学短期大学部こども学科

業ワークシートの内容を手がかりとして学習効果を明らかにする。

ところで、こどもの犯罪・防犯に関する先行研究・実践には、次のようなものがある。水山(2016)では、小学校社会科(4年生)の実践として「地域の防犯・防災マップ作り」を行った。その過程では、「見守り隊シールを貼ってある家」、「こども110番の家」、「安全な場所」、「危険な場所」を調べさせ、地域安全マップを作成した。その後、自分たちのできる防犯について思考させた。

沖西ほか(2014)では、「防犯，防災，交通安全」を主題において「安全環境」の構築という観点から環境保全的提案能力を育成する試みを行った。具体的には、5年生児童を対象とし、身近な生活環境(自宅，通学路，学校)に関する「安全・危険」のテーマでアンケートを行い、記号と言葉を用いた評価をさせた。また、公共的な社会環境での提案能力の育成を目的として学校周辺のフィールドワークを実施し、「安全」を身体的な危険の問題のみならずより幅広く「安全環境」として学習させるワークショップを行い、記号，言葉，昨年度の学習成果を用いて、評価と提案をさせた。主な結果として、「安全環境」の学習は経験者に比べて、未経験者の方が効果は大きいことを明らかにした。

いずれも、現場教育・実践であり、防犯意識を高めることに役立ったものと判断できる。他方、保育者・小学校教員養成課程において、この手の内容を扱う科目配置はほとんどない。その要因の一つとして、安全の対象が、犯罪，食中毒，遊具等の事故，自然災害，野生動物・昆虫との接触事故，虐待，心身的ストレスといったように幅広いことにある。特定の科目として網羅的に取り上げることは難しく、部分的とならざるをえない。よって、保育者・小学校教員養成課程におけるそれらの授業研究・実践も、不十分かつ断片的となる。

本稿も、安全に関する内容の一部を切り取った成果に過ぎない。ただ、安全に関する情報は、どのような手段で収集することが望ましいか、一定の意義を示したい。

Ⅱ 新聞活用の意義と形態

本章では、新聞活用の意義と授業実践の形態について述べる。こどもの犯罪に関する情報収集には、新聞記事のほか、テレビやインターネットといったものがある。近年、インターネットが情報収集の主役になっている。その証拠に、新聞購読は、減少の一途を辿っている。また、教育現場では、新聞活用の取り組みはあるものの、その広がりには十分ではない。

新聞記事とりわけ紙媒体の利点は、多様な情報の一覧性にある。すなわち、新聞は、頁をめくすることで、見出し，リード文，本文，図表といった様々な情報に触れることができる。その中には、読者が、もともと興味関心をもっていなかった内容も含まれよう。一方、テレビは、情報量が限定されやすい。インターネットは、閲覧者の興味関心の範囲内での情報収集となりやすい。新聞記事は、より広い多様な情報を収集できるといったところに利点がある。加え、それら情報の保存，その持ち運びも比較的容易である。

ところで、藤本ほか(2015)によれば、新聞活用の手立てとして、単一記事と複数記事，内

容と解釈という組み合わせによる4つの学習形態を示した。具体的には、第Ⅰ類型として単一記事・記事内容確認、第Ⅱ類型として単一記事・記事内容解釈、第Ⅲ類型として複数記事・記事内容確認、第Ⅳ類型として複数記事・記事内容解釈である。確認とは、新聞記事からの事実認識を目的としており、解釈とは、それに自分の意見を交えるような学習活動を想定している。また、第Ⅰ類型～第Ⅳ類型は、活用の手順としての役割を含む。

筆者も、部分的にこれらの考え方を援用した。受講生は、今回の授業以前に、他科目（学校教育教材研究や社会科指導法）の授業として、単一記事からの事実認識を経験している。今回は、複数の全国紙新聞記事の情報（こどものSNS犯罪）を読み取り、その比較から、情報の共通性や相違性に気付かせるような学習活動を行う。新聞活用の学習段階では、第Ⅲ類型と第Ⅳ類型の中間となろう。

Ⅲ 科目・授業内容の詳細

1 「こどもと安全」の科目全体構造

本科目は、こどもを中心とした犯罪と自然災害を取り上げ、主として防犯、防災といった内容について実践的に学ぶようになっている。

犯罪に関する場合、犯罪の要素・構造を説明した後、具体的な場面設定を行い、対処の仕方を思考・理解させる。その過程では、単なる対処の仕方の理解のみではなく、「なぜ、その行動が、危険なのか」同時に思考させるようにした。こうした経験が、危険リスクの軽減につながると考えられる。

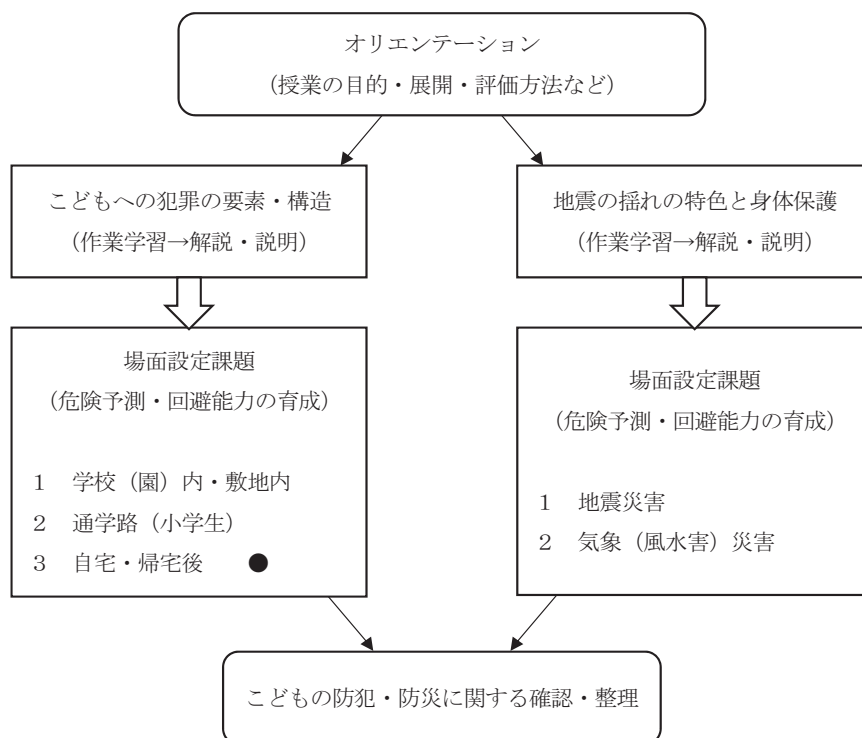


図1 「こどもと安全」の科目全体構造（2019年度）

注）●が、今回の場面（新聞活用授業）。

自然災害に関する場合、地震の揺れに関する基本的な特色を説明した後、具体的な場面設定を行い、対処の仕方を思考・理解させる。場面設定は、地震災害に続き、気象災害（風水害）についても取り上げた。最後に、一連の防犯や防災について振り返りを行う。

対象は、保育者・小学校教員養成課程に属する学生（2学年15名・2019年度）である。

2 新聞活用授業の内容・展開

（1）授業概要

授業（8回目／2019年11月27日実施）は、犯罪に関する最後の学習として実践した。こどものSNS犯罪は、近年、新しい犯罪形態として急速に増えているものである。そうした中、2019年初冬、大阪市の女兒（小学校6年生）が行方不明となり、その後、栃木県小山市で発見・保護され、容疑者が未成年者誘拐の疑いで逮捕されるという事件が生じた。具体的には、この事件記事を活用し、こどものSNS犯罪の実態について理解させようと考えた。新聞記事は、2019年11月26日付朝刊の読売新聞、朝日新聞、毎日新聞のものである。

まず、授業の冒頭において、前時の学習プリントの返却を行い、講評と確認をした。次に、新聞活用授業（授業タイトル：こども取り巻くSNS犯罪を考える）の実施を告げ、取り上げる背景と目的について示した。

授業の目的は、①こどものSNS犯罪の実態と対策、②情報収集する手段としての新聞記事比較の有用性について理解を深めようとするものである。

授業展開は、以下のような流れで実施した。導入において、上記の2つの授業目的について確認した。続いて、SNS犯罪を活用したこどもへの犯罪が増加していることに触れ、どのような危険があるのか、自分の考えとして予想（ワークシートへの記入・5分）させた。その後、何人かの学生に発表させ、情報共有した。

次に、展開として、全国3紙（読売・朝日・毎日）の事件記事を配付し、①各記事からの事実認識（15分）、②3紙を比較しての共通性と相違性（10分）について、それぞれ一定時間を確保し、段階的に学習活動（ワークシートへの記入）した。その後、②の内容を中心として、確認解説を行った。具体的には、共通事項、相違事項について例示した。相違事項は、どの新聞社からの情報かは触れていない。続いて、こどものSNS犯罪を減らす（防ぐ）には、どのような対策が考えられるか、新聞記事の内容を参考としながら、書くよう指示した（ワークシートへの記入・5分）。

最後に、終末として、事件内容を3紙で読み比べるという方法は、どのような学習効果を与えたと思うか、今回の学習経験をふまえ、自分の考えを書くよう指示した（ワークシートへの記入・5分）。その後、新聞記事比較の例示解説を行い、本時の内容について振り返りをした。最後に、ワークシートを回収し、次回の授業内容の予告・確認をして終えた。

表1 授業の構造（新聞活用授業）

<p>導入 20分</p> <p>仮説</p>	<p>○前時の学習プリントの返却・講評（確認）</p> <p>○本時の目的（新聞活用授業の提示）の説明</p> <p>① こどもの SNS 犯罪の実態と対策の認識</p> <p>② 情報収集する手段としての新聞記事比較の有用性の理解</p> <p>■こどもの SNS 利用に伴う危険予測（記入／5分 → 発表共有）</p>
<p>展開 50分</p> <p>犯罪実態 資料活用</p> <p>犯罪対策 仮説検証</p>	<p>○全国紙（2019年11月26日付朝刊読売・朝日・毎日の事件記事）の配布・実施方法の説明</p> <p>↓</p> <p>■①各記事の事実認識（ワークシートへの記入／15分）</p> <p>↓</p> <p>■②記事内容の比較／共通事項と相違事項（ワークシート記入／10分）</p> <p>↓</p> <p>○②を中心とした確認解説（共通事項と相違事項の例示）</p> <p>↓</p> <p>■ こどもの SNS 犯罪の注意・対策（ワークシートへの記入／5分）</p>
<p>終末 20分</p> <p>比較の 有用性</p>	<p>■ 新聞記事比較としての学習効果（ワークシートへの記入／5分）</p> <p>○新聞記事比較をしての例示解説及び本時の内容の振り返り</p> <p>○ワークシートの回収／次回の授業内容の予告・確認</p>

○教員の指示・説明 ■学生の学習活動

（2）授業実践の成果

本節では、授業ワークシートの内容を手がかりとして、どのような学習活動をしたか例示する。まず、危険予測では、誘拐、詐欺、情報漏えい、犯罪の加担、自殺の促進といった内容が挙げられた。とりわけ、情報漏えいとして、通学先、自宅、関係者（本人・友人・家族等）の情報などが挙げられた。これらの情報から、犯罪のターゲットになりうることを指摘している。これらの危険予測は、過去の事件（未遂事件を含む）から見聞したものが多いと判断できる。

新聞記事の比較の場合、共通事項として学生Aは「ツイッターのDMを用いて接触したという事実」や「被害者の母親の心境」、学生Bは「容疑者の女兒に対する誘い方」や「スマートフォンや靴を取り上げられていたこと」、学生Cは「容疑者の氏名の提示」などを挙げた。相違事項として、学生Aは「交通手段の詳細（Y紙）」、「SNS被害の情報（A紙）」、「女兒のSNSの使い方（M紙）」、学生Bは「銃弾の記載がない（Y紙）」、「偽名（せつじろう）と名乗っていた疑い（A紙）」、「容疑者の住んでいる東京の方の記載がない（M紙）」、学生Cは「容疑者の自宅までの道のり（Y紙）」、「SNS被害の情報（A紙）」、「母親自らのSNSのチェックについて（M紙）」を挙げた。

3人の共通・相違事項をみれば、若干、内容の異なることがわかる。学生Bの場合、他紙の情報が無い点を違いとして注目した。よって、読み手により、どの内容に重点をおくか、印象をもつか、多少違う点が興味深い。

最後に、防犯では、「話し合いを通じての使用のルールづくり」、「保護者がアカウントを管理する」、「相談しやすい関係づくり・信頼関係の構築」、「閲覧内容の制限」、「写真などの個人情報をおせないこと」、「こどもの行動把握・興味関心の向上」、「ネットの怖さを具体的に知らせる」などを挙げた。

以上から、防犯に関する内容は多岐にわたるものの、情報の交流・管理、禁止・制限事項の徹底、悪影響の具体に分けることができる。また、こどもと保護者の関係に加え、保育者・教員との関係強化について触れているものがあった。よって、防犯には、保育者・教員の役割・支援も重要と認識できたものと考えられる。

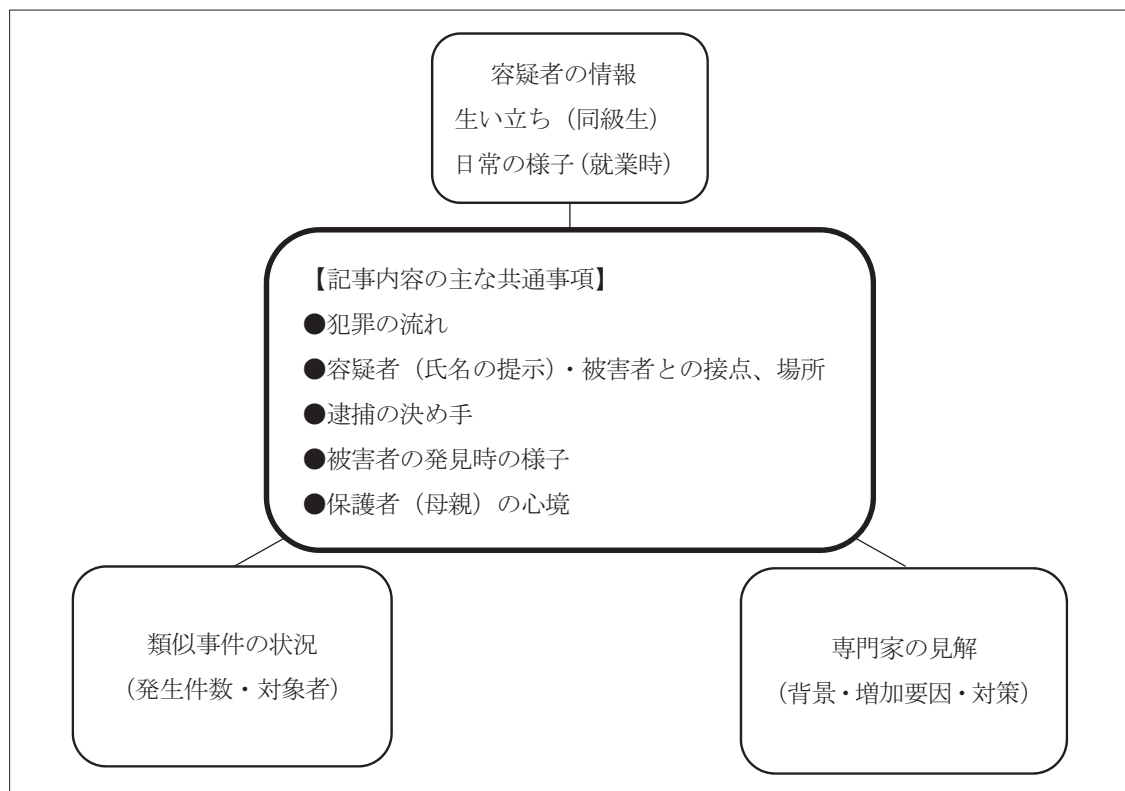


図2 新聞記事の主な内容（共通事項と相違事項）

資料）2019年11月26日付朝刊読売・朝日・毎日記事。

注）太字囲み線は記事内容の共通事項、細字囲み線は記事内容の相違事項

表2 各紙における記事内容の見出し

【読売新聞】容疑者 本名隠し接触 人目避け？無人駅利用
 【朝日新聞】「頼れそうな大人」 SNS 潜む悪意
 【毎日新聞】ツイッターで女兒に接触 誘拐容疑者 非公開機能使い

資料）2019年11月26日付朝刊読売・朝日・毎日記事。

Ⅳ 新聞活用の効果

本章では、授業ワークシートの内容を手がかりに、新聞活用の効果を検証する。すでに述べたように、授業終末の場面で、「事件内容を3紙で読み比べるという方法は、どのような学習効果を与えたと思うか、今回の学習経験をふまえ、自分の考えを書くこと」といった指示をした。

以下に内容を例示する。まず、「違うことが書かれているところが何点かある。客観的に物事を取り入れることができようになるのでは」、「事件の大まかな前後だけを知るのではなく、容疑者の背景や性格を知っていくこと、そして、事件に巻き込まれてしまった女兒の行動、対応、事後のケアについて、多方面から捉えていくことが大切だと感じた」の場合、情報の種類や情報の広がり気付いた。次に、「それぞれの視点があり、情報が欠落している部分を補い合い理解を深めることができた」、「1紙だけを読むだけでは、偏った情報しか得られないと実感し、色々な角度から1つの物事を見て考えることで、自分なりの考えを深めることができたと思う」の場合、事件を捉える視点として多様性があることに気付いた。続いて、「各新聞社の文章から共通点を見つけることで、確実な情報を得たり、母親のコメントは別の部分が載せられていることから事件が起きた時の母親の気持ちを様々な視点から考えることができる」は、重複する情報を見極めることで内容の重点を捉えることができた。さらに、「事件をより詳しく知ることができるし、犯人の人柄や犯行までの手口など沢山の情報を集めることができる。また、どういった子どもが事件に巻き込まれやすいのかも知ることができ、対策をすることができる」では、ターゲットになりやすい情報を多く得ることで、防犯の質を高めることに役立った。最後に、「必要な情報は1つのものでは分かったとは言えないので、色々なものを見て決めることが大切」、「3紙を読み比べることで、どの新聞社が何を伝えたいのかを理解できた。また、こういうことから犯罪につながるということが分かった」の場合、情報を比べることの意義や価値に気付いた。

以上から、複数の記事を読み比べることで、新たな発見ができたり、再認識できたりといった効果を得ることができた。すなわち、こどものSNS犯罪に関する事実認識と同時に、新聞のもつ情報収集の有用性にも気付くことができた。

受講生は、複数の記事に触れると、何らかの効果があることを予想していたであろう。ただ、具体的に、どのような効果があるのか、わからないと自主的な行動に結びつかない。実際、複数の記事を読み比べるのは、時間的・予算的に難しい。そのため、新聞記事をはじめとするテレビ、インターネットなどの複数の情報媒体に触れる意義や重要性といった点に置換させたい。また、学習活動として、他者の意見に耳を傾ける重要性といった点にも応用できよう。

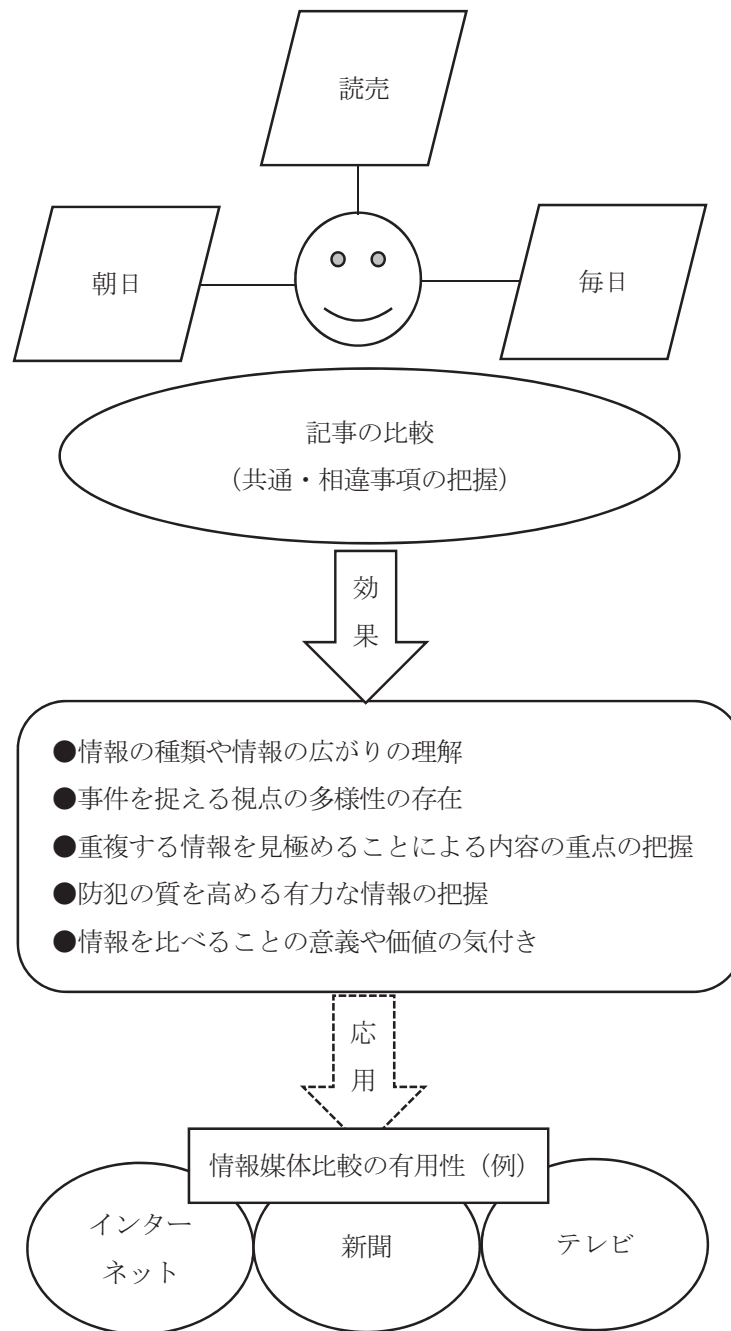


図3 新聞記事比較の効果(例)

注) 点線(矢印)は、行動の可能性を意味する。

V お わ り に

以上、本稿は、保育者や小学校教員を目指す学生に、具体的なこどものSNS犯罪について、新聞記事を用いながら、事実認識とその対策の理解を深めようとする、情報収集する手段として、どのような新聞活用・手法が有効かを、授業の様子や授業ワークシートによって明らかにしようとするものであった。そのため、授業の目的として①こどものSNS犯罪の実態と対策の理解、②新聞記事比較の有用性の理解を設定した。

その結果、こどものSNS犯罪が生じる背景・要因、実態、対策といった一連の理解を深めることができた。その理解の深化は、新聞記事比較による情報の共通性や相違性に気付くことによって実現できたものである。

よって、新聞活用比較では、同じ事件内容において、どのような情報が増え、質が深まるのか、その結果、どのような意味や価値を生むのか、という一例に気付くことができた。この経験によって、多様な情報・情報媒体に接することの大切さを深めてもらいたい。

今後、こどもの安全に関する情報を収集する際、受講生は学習経験を活かすことができるのか、見極める必要性があろう。加え、現場（とくに小学校）において、新聞活用した授業を実践できるかも、重要となってくるであろう。

文 献

- 沖西啓子ほか編（2014）：「安全環境」について児童自らが主体的に提案するための授業構成、
 広島大学学部・附属学校共同研究機構学部・附属学校共同研究紀要第43号，pp.61-67.
- 菊地達夫（2017）：保育者・教員養成課程における18歳選挙権を考える授業の工夫とその効果－
 日本国憲法の新聞活用の授業を通じて－，群馬社会科教育研究第5号，pp.57-62.
- 菊地達夫（2018）：日本国憲法の授業における新聞活用の実践と効果－憲法改正の内容を事例
 として－，北翔大学教育文化学部研究紀要第3号，pp.75-84.
- 水山光春（2016）：「地図を用いて身近な地域の防犯・防災，交通を考える」，『社会科教育』
 6月号，明治図書，pp.32-35.
- 藤本将人・北海道新聞NIE推進センター（2015）：『新聞を活用する教育 中学校社会科の
 授業づくり』共同文化社.

